

法然上人のご法語 第十六 他力念仏

念仏の数を多く申す者をば、自力を励むと云う事、これまたものも覚えず浅ましき僻事ひがことなり。ただ一念二念を称うとも、自力の心ならん人は、自力の念仏とすべし。

千遍万遍を称え、百日千日、夜昼よるひる励み勤むとも、偏ひとえに願力を頼み、他力を仰ぎたらん人の念仏は、声々しやうしやう念々、しかしながら他力の念仏にてあるべし。

されば三心さんじんを発おこしたる人の念仏は、日々夜々、時々剋々に称うれども、しかしながら願力を仰ぎ、他力を頼みたる心にて称え居たれば、かけてもふれても自力の念仏とは云うべからず。

「他力念仏」

阿弥陀仏の救いの力にまかせきつて称える念仏

「浅ましき僻事」

あきれた大間違い

「三心」(『観無量寿経』)



二十五菩薩来迎図（知恩院蔵）

念仏者は次の三種の心をそなえよ、という教え。

一、眞実まことの心をもつて念仏しなさい。

二、「つたなきわが身も必ず救われる」と深く信じて念仏しなさい。

三、念仏以外の一切の功德をも「これも極楽往生のため」と往生のために振り向ける心構えをもちなさい。